



# 衛星画像のオンラインサービスを通じて新しい市場を開拓

日本スペースイメージング株式会社

## 目的

- Web配信サービス体験デモ用に信頼性の高いシステムの導入
- 24時間365日フル稼働が前提
- 導入コストおよび納期の圧縮

## アプローチ

- Web配信サービス体験デモサーバとして Workstationを活用
- 確実な動作と可用性の高いシステム構築

## システムの効果

- Web配信サービス体験デモにおいて安定したサービス提供を実現
- 堅実な連続稼働で24時間365日のデモが可能

## ビジネスへの効果

- カタログでの説明だけでは伝わらない部分までサービスを体験してもらえる
- 汎用性の高いシステム構築の成功を受け、さらに幅広いサービス展開も視野に

衛星画像を通じたサービスで、あらゆる業種から高い評価を得ている日本スペースイメージング株式会社（以降、JSI）。高解像度の衛星画像の取り扱いをはじめ、2012年4月からはネットワーク上の高解像度衛星画像が利用できる配信サービスも提供している。新しい形式のビジネス提案として、まだ始めたばかりの配信サービスではあるが、そこに HP の Workstation が活用されている。同社にお話を伺ったので紹介しよう。



影可能です」と池田氏。

## 宇宙からの視点で 地表データから情報を読み取る

1998年に起業したJSIは、商用解像度では最高峰となる「GeoEye-1」をはじめ、「IKONOS」「RapidEye」の光学衛星及び、昼夜・晴曇の区別無しに地表を撮影できるレーダ衛星「COSMO-SkyMed」など、ニーズに応じた多彩な衛星画像を販売している。「衛星画像の販売もそうですが、弊社はアンテナ局を所有しているという特長があります。衛星の撮影するタイミングやスケジュールをコントロールするタスキングを行う部署で、彼らが日々、衛星が通過する時刻や気象情報を考慮して、品質のよい画像を撮影しています。それによってお客様のニーズにお応えできる画像をお届けしているのです」と語るのは、技術本部 画像配信部 エンジニア 池田林房氏（以降、池田氏）。

衛星画像の品質は、50cm という高解像度撮影が可能となっている。きめ細かい俯瞰画像が業務の中で必要となる業種にとっては、いまや不可欠になっているのだ。「そうした衛星画像のメリットと、さらに使いやすさを提供するサービスとして、2012年4月からスタートしたのが衛星画像の配信サービスなのです」と池田氏は語る。

## 最新の衛星画像を ブラウザで閲覧

「お客様のニーズは実に多彩なので、その方々がそれぞれ見やすく、使いやすくするにはどうすればよいのか。それを弊社側から提案できるようにしたサービスがブラウザで衛星画像を閲覧できる配信サービスなのです」と語るのは、配信サービスのコンセプトを発案した石井氏だ。

「例えば東日本大震災のように、特定の地域や地方がそれ以前と一変してしまうようなこともありますから、広域の情報を確認することも必要です。また、ひとつの場所を毎月撮影することによって変化をモニタリングすることもあります。大きく分けてお客様のニーズにはこの2通りがあるのです」と石井氏は語る。このニーズに応えられるよう JSI の配信サービスには、任意の地域ごとに画像を指定して閲覧する「EyeQ」と、特定の地方を網羅する「J-IMAGE50」がある。もちろんこれらから得られる画像は、すべて高品質の衛星画像であるので、十分な業務利用が可能だ

衛星画像の有用性は説明の必要が無いほどだが、近年になりコンシューマ用途でも航空写真と地図を重ね合わせたサービスが身近になっている。俯瞰で見る地表データはより生活に密着し始めているのだ。しかし、そのようなサービスは都市部や人気スポットなどは解像度の高い画像が提供されてはいるが、僻地になると画像も古く、解像度が低いものが貼り込まれていることも少なくない。「無償のサービスですからそれは当然です。航空写真ですと、割と絞り込まれた地域を撮影しますが、衛星の場合は広大なエリアを一度に、しかも高解像度で撮影できます。また、「GeoEye-1」衛星は周期的に日本上空を通過しますので、同じ地域がどのように変化していくかを撮影することが可能で、さらに先の東日本大震災等の被災状況や、上空に飛行制限が掛かっている空港周辺の様子なども撮

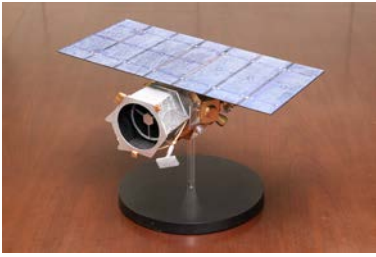


技術本部 画像配信部 エンジニア  
池田林房氏



画像配信部 エンジニア  
石井雅哉氏





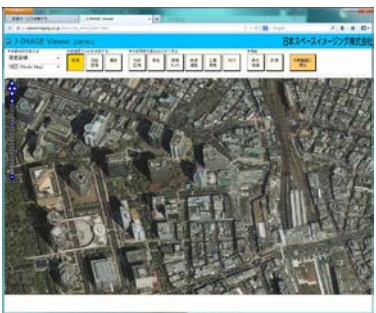
上空約 680km の衛星軌道上から 50cm の高解像度を実現している「GeoEye-1」の模型



©GeoEye,a DigitalGlobe company  
©Autodesk  
用途に合わせて衛星画像を地図データに貼り込むなどの加工もできる



JSI の「衛星画像配信サービス」、Z800 は体験デモの配信サーバとして使用  
<http://www.spaceimaging.co.jp/haishin/>



©GeoEye,a DigitalGlobe company  
「J-IMAGE100」の高解像度衛星画像のデモ



JSI の配信サービス体験デモを支える HP Z800 Workstation

JSI の配信サービスを体験してもらうために JSI では体験デモを用意し、そのデモ配信サーバとして HP Z800 Workstation を採用した。「本来ならサーバを導入することも考えましたが、十分なスペックであるためコスト面からこの製品を選びました。実はサービスの起ち上げ期間がものすごく短かったのです。サーバ製品の場合は購入から納品、起ち上げまでかなりの日数を必要としますが、Workstation ならすぐに対応できます」と導入理由について池田氏は語る。

## 高い信頼性で HP を指定

JSI では配信サービス以外の基幹システムにも多くの HP 製品を導入している。そのひとつのきっかけは、衛星画像の画像処理での問題だったのだという。「元々、衛星画像というのはそのままでは扱えません。いくつかの加工を経て、ようやく画像化できるものなのです。以前はその画像加工に PC を使っていたのですが、不安定さは隠せませんでした」という池田氏。その後、HP の Workstation を導入し、同じ処理をやらせたところ連続稼働を続けても安定していたのだという。「実証実験を繰り返したときに『これはいける!』と直感しました。それから HP 製品への信頼が高まっていったのです」と池田氏。

処理速度に加え安定度を重視する JSI では、配信サービス体験デモで Workstation を活用する。スペックは、実際に同社で稼働しているサーバを想定して決定した。「他の配信サーバで HP 製品を使用していたので、経験的に必要なスペックは分かっていました。ですから、Workstation のスペックにもそれを反映させたものを想定すると、HP Z800 Workstation がベストだったのです。実際のプレビューでも画像表示も早いですし、処理速度も申し分ありませんでした」と池田氏は語る。

HP Z800 Workstation はサーバに匹敵するパフォーマンスと、連続稼働はもちろん、過酷な使用環境での使用も前提とされているパワフルで堅牢性の高いマシンだ。「今回の配信サービス体験デモを稼働させている Workstation は、お客様が直接目にする部分を担当しています。今まではカタログや実際の画像を我々が手に持ってお客様に説明していたものを、ブラウザ

で表示させ画面上で動かしてデモを行うことができるようになりより効果的にサービスを理解していただけます。お客様にとっては、もうちょっとこういう角度のものが欲しいといったこともあるでしょうから、導入前にサービスを自由に試していただけて、しかも実際にその画像がすぐに見られるので導入したメリットは非常に大きかったと感じています」と石井氏も導入の手応えについて語る。

## さらなる協力体制で多くの顧客ニーズを汲み上げる

「配信サービスは必要な衛星画像がブラウザで閲覧できるのが最大のアピールポイントです。先にお話に出てきた東日本震災のような激甚災害が起こり、せっかく購入した衛星画像がすべて失われるということもありません。必要なデータはすべてサーバ上にありますから、そこからデータを引き出せばよいのです」と石井氏。「お客様が衛星画像を使ってやりたいことというのは、お客様の数だけあるのです。それらに対応できる柔軟な環境をオンデマンドで提供していけるプラットフォームが用意できるとよいですね」と同氏は言葉を続ける。

「例えば、ブラウザで閲覧するだけでなく、モバイル Workstation やタブレットでも見られるようにすれば、現場で衛星画像が必要な方々にとってもかなり扱いやすくなるでしょう。デバイスを含めたプラットフォーム提案ですね。また、Workstation でも十分稼働することが分かりましたので、サーバごと、データと一緒にお客様に提供することも視野に入れられるはずですよ」とサービスの広がり語る池田氏の表情は明るい。「他にも地理的な処理をサーバ側で処理するシンクライアントのようなシステムも考えています。Web カメラや水位計といったリアルタイムセンサーを表示させるようなシステムもニーズが見込めるところですよ」と石井氏。

衛星画像を通じた配信サービスの可能性は無限に広がっている。顧客ニーズがさらに増えていくに従い、それを可能とする JSI のサービスもまた育っていくのだろう。池田氏、石井氏、それに JSI の今後注目していきたい。



記事を共有する

